



互いを思いやりながら進む2羽のカモに魅せられて

時に大学生がサークル活動で、競技用の細長いボートを1〜10人ほどで漕いでいる。先輩の後輩への指導ぶりが温かい雰囲気、私の心も温かい。花愛好家のグループが育てた花を見ても癒された。

体調を崩し、数か月の静養を自宅で過ごした頃、徐々に体力強化を思い立ち、自宅から五分程の神崎川で散歩を始めることにした。遊歩道や自転車専用道が有り、幼児や老若男女が安心して散歩ができる。

読者投稿でつむぐコラム

ちよっとイイ話

第1回 大阪梅田教会 安本^{みね}峯子

教会や家など身近にあった心温まるエピソードを読者投稿より紹介!



近所に住んでいた留学生ビニー・シャーマさん(左)と筆者(右)。日本で良い思い出ができるようにとの思いで声をかけ、交流するようになった。教会でも、新しく来られた人にはすすんで話しかけている。写真左後方にはボートが写る。

ある日、一人で歩いている私の後方から、2メートル近く前に舞い降りた水鳥のカモに驚いた。私に背中を向けてコンクリートの歩道に。じっと動かないので私もじっとして見ている。やがて、カモがゆっくり移動。それに合わせて私もそっと移動。カモは攻撃してきたり、逃げたりはしない。すると、動き出した先の草むらにもう一羽のカモがこちらを見ていた。感動の一瞬。こんな瞬間を体験できるとは。体の大きさが同じだったのでたぶんカッ

プルのでは。さらにこちら側のカモが草むらに入り、それを待っていた相手と、目標の場所に揃って移動し始めたが、私の視線を感じ、目的変更とばかり、向きを変え、川沿いのコンクリートの壁に並び、飛び込むかのように、またまた、向きを変え、一直線上前方に進み姿を消した。見事な判断。

互いへの思いやり、知恵と判断する行動に尊敬の念すら覚えた。短時間であったが、感動の余韻が長く残った。その場面をデジタルカメラで撮影できたのもラッキーだった。体調が戻るまで、季節が何度か巡り、やっと取り戻していたのだと今を、誰かのために役立つように心がけています。

ご投稿ありがとうございました!

私は1986年にイタリヤから来日しましたが、来日してまもなくアシジで世界平和の祈りの集いがあり、私の所属する聖ザベリオ宣教会でも、京都のリーノ・ベリーニ神父が日本の諸宗教代表者団に引率しました。のちに霊性センター「真命山」を始めるフランコ・ソットコロノ神父も諸宗教対話の活動を模索していたところでした。そんな中、日本語を勉強中だった私も、門脇佳吉神父様のことを知りました。神父様はイ

「試みに現代の日本で道と呼ばれるものを列挙して見るとよい。茶道しかり、華道しかり剣道しかり、柔道しかり、歌道しかり、俳句の道しかりである。ある人は野球道を唱え、ある人は商業道を説きさへする。……ほとんどの人がこれらの芸能を通じて何らかの意味で身心を鍛錬し、精神を修養したいと、心のどこかで願っていることは疑いないことだと思ふ」。

この本によると、日本では古くから「道」の思想があり、その伝統は今も日本人の心の中に生き続けているという事です。

次回、パウロ・セコ神父様(和歌山紀北教会)です。

① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
③ 感想を送ってください。皆様全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈。たくさんのご投稿をお待ちしています。

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、最頼^{もよりかんりやう}巖流^{いんりゅう}神父様 聖ザベリオ宣教会が担当。



エズス会の司祭ですが、禪の修行もなさって、仏教とカトリックの接点を研究され、その結果をいくつの本に書きのこしてくださいます。

神父様の本を読むと、日本の文化に対して大きな関心が起こり、宗教心のおもしろさも伝わってききました。神父様は特に『道の形而上学』という本でご自分の研究のまとめをなさいました。諸宗教の比較によって神父様が発見されたのは、仏教でもキリスト教でも、「道」という概念はとも豊かな意味をもった言葉であり、かつ互いの大きな共通性を示す言葉ということでした。そればかりか、神父様は「道」という概念を日本の宗教と文化の基礎として明らかにされました。

をとりあげ、道という概念を比較しながら分析して、驚くほど豊かなメッセージを私たちに伝えてくださいました。

門脇神父様の『道の形而上学』は日本の若い人たちにとって、日本文化のさまざまな特徴を見直すきっかけになるでしょう。そして、私の会でも若い世代のロッコ・ビビアーノ神父が教区の諸宗教対話委員会委員長を務めています。キリスト教や仏教について新しい観点から考える助けになるでしょう。



最頼巖流神父からこの一冊

ハラスメント相談窓口
ひとりでお悩まないで
~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父
〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345
医療法人ガラシア会

スタッフ募集
株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅
ドムス ガラシア
「ドムス ガラシア」の看護師、介護職資格のある信徒の職員、また併設する「ガラシア園田クリニック」の医師、看護師を募集しております。ご協力をお願い申し上げます。
☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 濱口、Sr川水

新コラム投稿募集
(800字程度+写真1枚)
①か②のお題を1つ選び、『大阪カトリック時報』宛にお名前、所属教会、連絡先記載の上、メール・郵送・FAXのいずれかでご応募ください。
①「わたしの教会のいいところ」
所属教会のお宝・自慢できるところを紹介
②「ちよっとイイ話」
教会や家など身近にあった心温まるエピソード紹介